

ドイツ語専攻

🌐 ドイツ語を本格的に学びたい人、ドイツ語圏の歴史や文化を学ぶことをとおして現代ヨーロッパ社会への理解を深めたいと思う人、ドイツ語圏の国々で生活したり働きたいと思う人を歓迎します。



ドイツ語は、ドイツだけでなく、スイス、オーストリア、リヒテンシュタインなどの中部ヨーロッパの国々に住む1億人ほどの人々が母語として用いている言語です。その他にもチェコ、ハンガリー、ポーランド、ロシアなど東欧諸国においては、英語に劣らず重要視されています。数あるヨーロッパ諸言語の中でも、ヨーロッパの文化や学問の形成に深く関わってきた言語であるといえます。また現在、ドイツはEU(ヨーロッパ連合)の有力な一員であり、経済やエコロジーの分野で世界的レベルの重要な役割を果たしています。ドイツ語の学習を通してこのようなすぐれた文化や社会に触れることができます。

ドイツ語専攻では、日本人6名、ドイツ人1名の教員を擁し、その他にも10数名の日本人、ドイツ人、スイス人の講師がさまざまな授業を担当しています。ドイツ語専攻に入学すると、まず前期課程の2年間は文法・作文・購読・会話・LLなどの科目によって、ドイツ語とドイツ語圏の文化に関する基礎知識を学びます。ドイツ語の言語的知識とコミュニケーション能力を鍛錬する科目と並んで、講義や購読において、ドイツ語圏の社会・文化・言語などに関する知識を深め、3、4年生におけるドイツ語圏文化研究のための土台を築くこととなります。

3、4年生(後期課程)では言語、文学、文化、思想、歴史などといった多彩な分野の演習科目が用意されており、自分が関心を持つ学問分野をベースキャンプとして選択し、そこで専門的知識を深め、学生生活の総決算である卒業論文を作成します。またこれと並行して関連する研究科目および会話や作文などのドイツ語運用能力を高める科目も必修科目となっています。このように整備されたプログラムと高い専門性を備えたドイツ語専攻を卒業した後は、ドイツ語のスペシャリストあるいはドイツ語圏の国々で活躍できるエキスパートとしての将来が皆さんを待ちうけています。

「ゲーテン・ターク」

Guten Tag!

学生の声 

3年 林 真奈美

皆さんはドイツ語の単語をいくつ知っているでしょうか? 私たちの身の回りにドイツ語はあふれています。例えば、エネルギー(Energie)、バウムクーヘン(Baumkuchen)、アルバイト(Arbeit)、ダックスフント(Dachshund)などなど。皆さん聞いたことある言葉ですよ。では、この単語はどうでしょうか。何文字あるか数えてみてください。Rindfleischetikettierungsüberwachungsaufgabenübertragungsgesetz 63文字もあり、長いですよ。しかし、これで一単語です。ちなみに牛肉標識監視作業譲渡法という法律名です。

ではドイツ人はどんな人たちだと思いますか? まじめで堅苦しく、規則を守り日本人と似ているといわれています。しかし私がドイツへ行くと、路上で陽気に話しかけてられ、信号無視をする人が多くカルチャーショックを受けました。

またドイツという国にどのようなイメージを持っていますか? サッカーが強い、ビールやソーセージが有名、難民の受け入れ国、ヒトラーを生んだ国などでしょうか。ドイツ語を学んでいくにつれ、ドイツという国についても知ることができ、ニュース記事を読んでみると、日本では伝えられていない情報を得ることができ、より深く実際のドイツについて学べます。ドイツでは何が問題となっているのか、ドイツでは何が流行っているのか、EUの中心的な国であるドイツについて知ることでヨーロッパを知る手がかりになります。

文学、音楽等ドイツ語を学ぶ魅力はまだたくさんあります。みなさんもともにドイツ語を学んでみませんか? Auf Wiedersehen!(さようなら)



留学体験記 

4年 丸井 雄生

周りの学生が2年生の夏頃には留学の準備を始める中、私は3年生になる直前になってドイツへ行きたいと思い始めました。ただ時期的には少し遅く、何とかドイツへ行く方法はないか探したところ、友人からドイツのデュッセルドルフ大学で日本語を教える実習生を募集しているという話を聞き、飛びつきました。

日本語教育の現場は毎日が勉強で、私にとってすべて新しいことばかりでした。1週目からさっそく授業を任せられ、毎週の授業の後に指導担当の先生からコメントやアドバイスを頂き、修正する作業を10か月間続けました。授業がうまくいかず自信をなくしたり、悩んだりする場面も多々ありました。しかし周りの人の支えと明るく授業を受けてくれる学生たちのおかげで乗り越えることができました。最後のほうは自信を持って授業を行うことができ、自分の人間としての成長を実感しました。

幸運なことに、他の留学生とともに語学コースを受けたり、ドイツ人学生と一緒に講義を聴講したりすることもできました。またドイツ人の友達と遊ぶ中でも、ドイツ語の力が身につきました。そして、遊ぶことも語学の上達には大切なことだということを学びました。周りのドイツの方々はよく遊びに誘ってくれたし、自分からも積極的に誰かをさそって外に出るようにしていました。

普通の留学とは形は異なりますが、このような形での海外長期滞在中も大阪大学だからこそ経験できることであり、自分だけの特別な体験ができてうれしく思っています。

